

第5回 DHC シンポジウム報告

「街づくりと地域冷暖房—都市環境への貢献を目指して」

平成10年11月16日(月)東京九段会館において当協会主催の「第5回 DHC シンポジウム」が建設省の後援、(社)日本熱供給事業協会の協賛を得て、200余名の参加者のもと盛大に開催された。

本シンポジウムは毎年開催しているもので今回5回目を数える。本年は「エネルギー・環境・経済成長」の諸問題を調和させながら解決するために、「地球温暖化防止等の地球環境問題対策としての地域冷暖房」との観点より、「街づくりと地域冷暖房—都市環境への貢献を目指して」と題して地域冷暖房のありかた、今後の発展の方向、支援施策等について基調講演、一般講演が行われ、その後都市再開発における事例が紹介された。

石橋勇之副理事長の開会の辞、建設省大臣官房技術審議官(都市局担当) 小沢一郎氏のご挨拶により開幕し、初めに「地球温暖化対策と『システムエネルギー』」と題して地球温暖化防止と構造的省エネルギーの実現に向けた基調講演が芝浦工業大学教授 平田賢氏により行われ、引き続き、「都市整備と地域冷暖房」と題して、建設省都市局都市再開発防災課建設専門官 高橋忍氏により、地球温暖化防止に向けた地域冷暖房導入の意義や、中心市街地の活性化に向けた取り組み等、基本計画の策定状況等総合的施策について講演戴いた。また「東京都都市熱源ネットワークについて」と題して、東京都都市計画局総合計画部担当課長 那須井幸一氏より、複数の地域冷暖房プラント同士、及び未利用エネルギーの熱源をプラントへ連絡する施設としての都市熱源ネットワーク整備基本計画調査について報告された。

コーヒーブレイクを挟み、地域冷暖房施設の一つの計画(案)を含む三つの都市再開発における事例が紹介された。

一例目は計画(案)として横浜国立大学大学院助教授 佐土原聡氏より「横浜臨海地区におけるエネルギー系総合都市インフラ構想」と題して、地区拠点型の自立システムをサポートするシステムとしての広域幹線共同溝ネットワークの意義を紹介戴いた。

二例目は熱供給事業者サイドから四国電力株式会社営業部番町熱供給センター 西森靖徳氏より「高松市番町地区における地域冷暖房について」と題して、都市開発をとまなわずに既設建物の立て替え工事に合わせて順次熱供給を行なった、全国的にも珍しい熱供給地点として紹介戴いた。

三例目も熱供給事業者サイドから大阪ガス株式会社都市圏営業部開発チーム 川上貴保氏より「大阪岩崎橋地区における地域冷暖房について」と題して、コージェネレーションシステムと未利用エネルギー活用システムの導入によるエネルギー有効利用型熱供給システムについて紹介戴いた。

最後に、三品専務理事が閉会の辞で、都市基盤施設の一つとしての都市環境への貢献を目指した地域冷暖房のより一層の普及を目指したい、との抱負をのべ幕を閉じた。

